

横浜市インフルエンザ流行情報 11号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

流行が継続しています。

【概況】

2016年第11週(3月14日～20日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **15.49** と減少傾向ですが、区別では20.00を上回っている区もあり、引き続き注意が必要です。

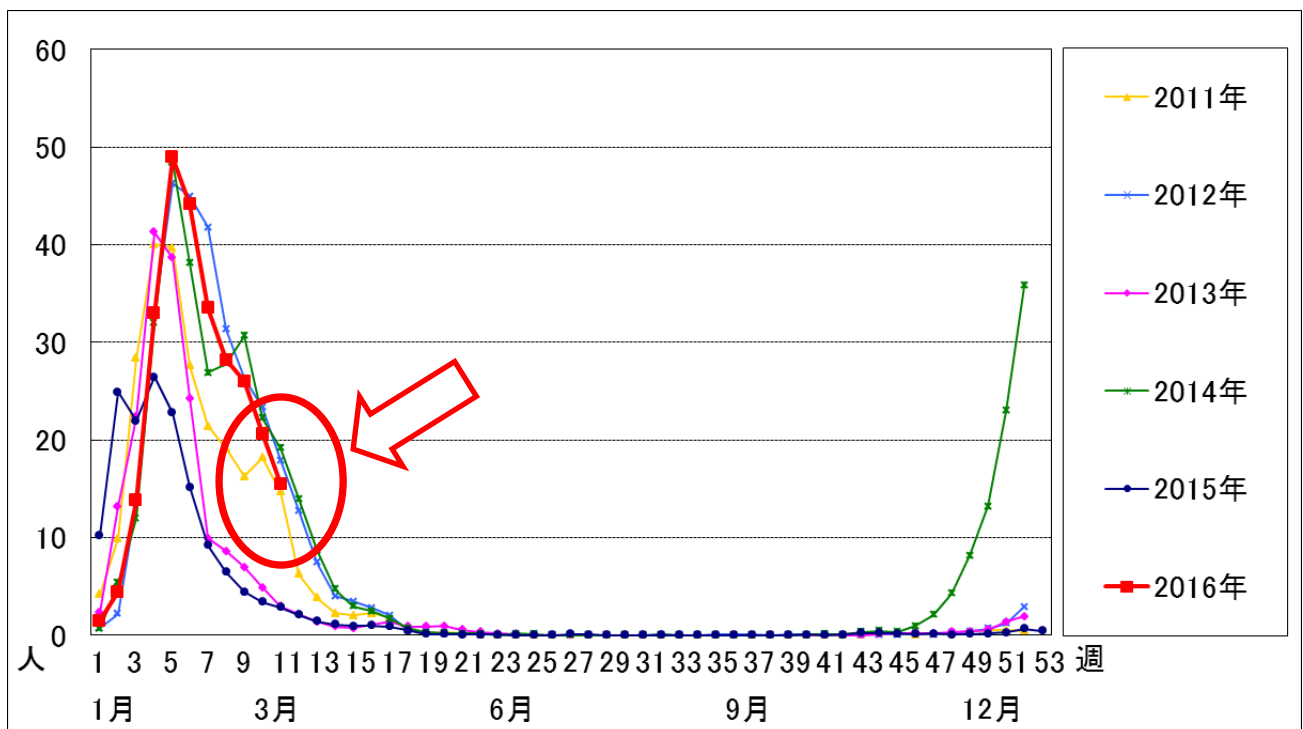
医療機関における迅速診断キットの結果報告数では、第11週では**全体の約8割がB型**です。市内で検出されたウイルスでも、B型(Victoria系統)、B型(山形系統)の割合が増加傾向です。

インフルエンザの流行は、今後もしばらく継続すると考えられるため、手洗い等の感染予防や早期受診などの重症化予防対策^{※2}が重要です。

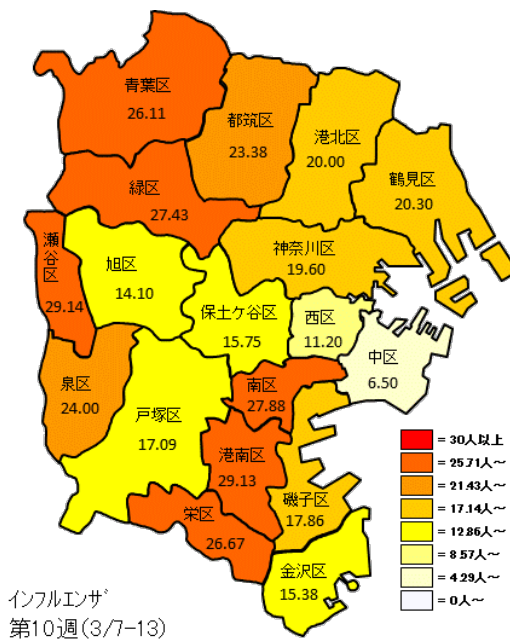
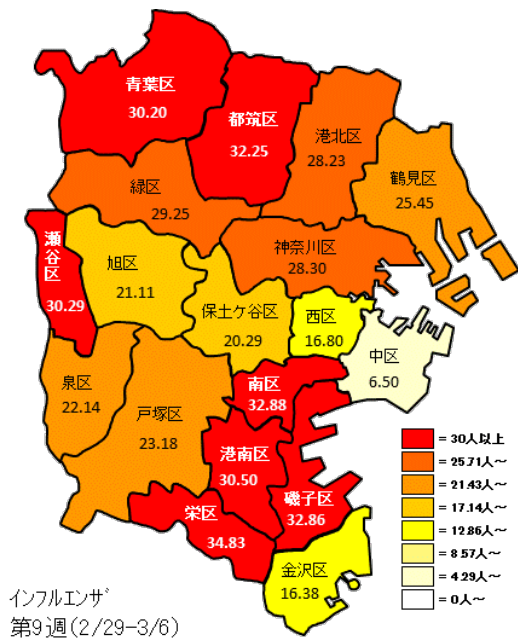
※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第5週をピークに減少傾向です。



2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



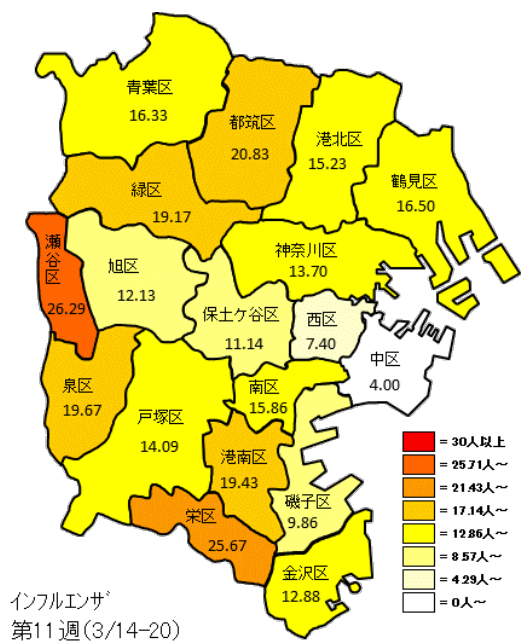
※参考リンク

近隣自治体の流行状況

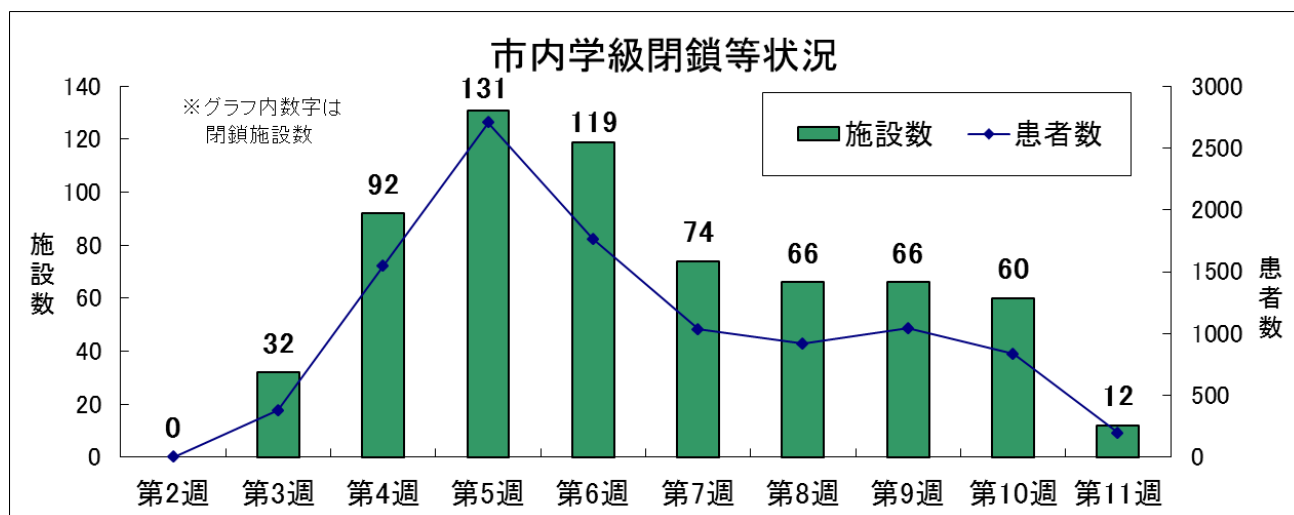
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

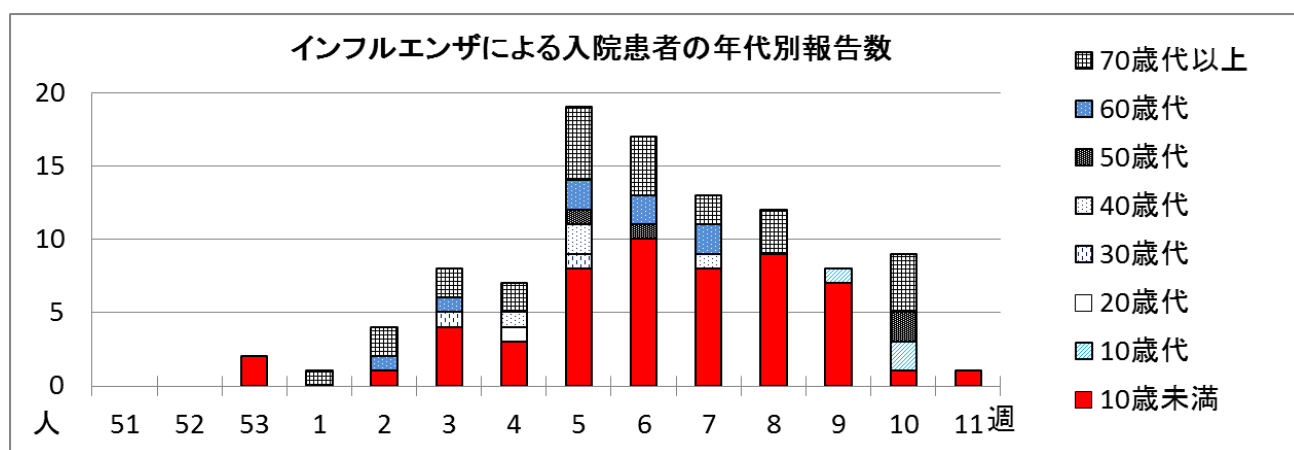


3 学級閉鎖施設数:市内の学級閉鎖は第11週になり急激に減少しました。第11週の閉鎖施設の内訳は、小学校11、幼稚園1と、小学校が全体の91.7%を占めています。



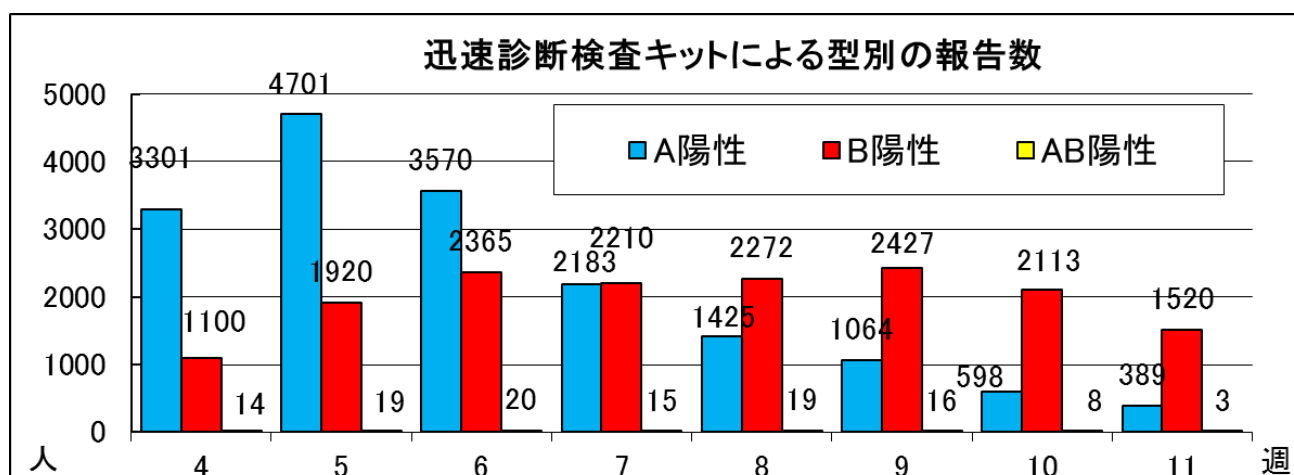
4 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※3}におけるインフルエンザ入院患者は、減少傾向です。

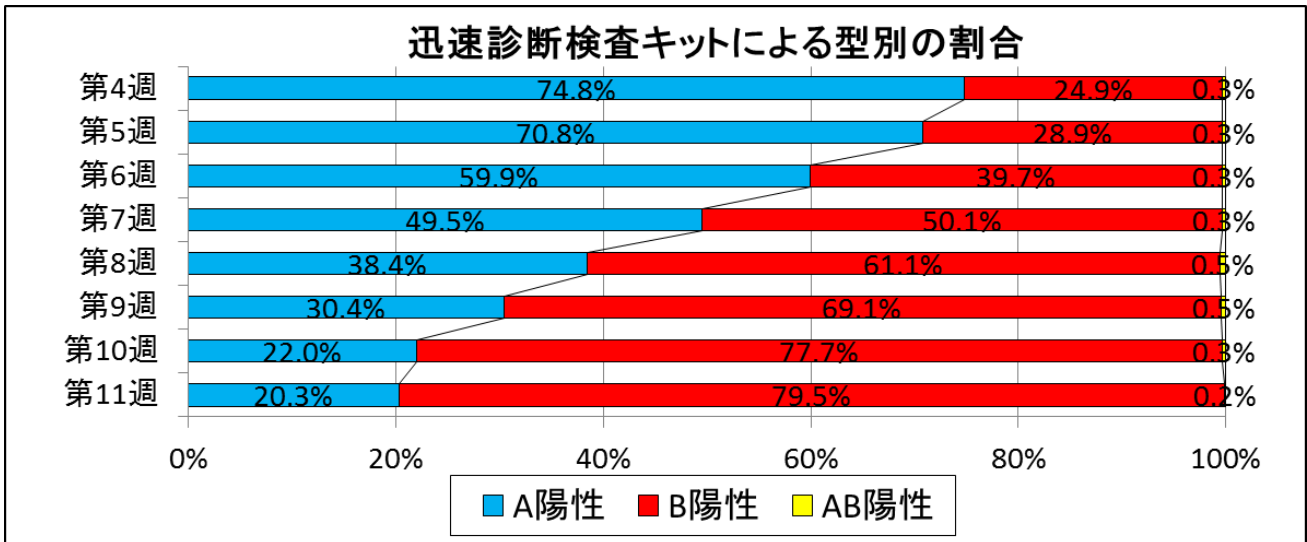
※3 基幹定点…患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



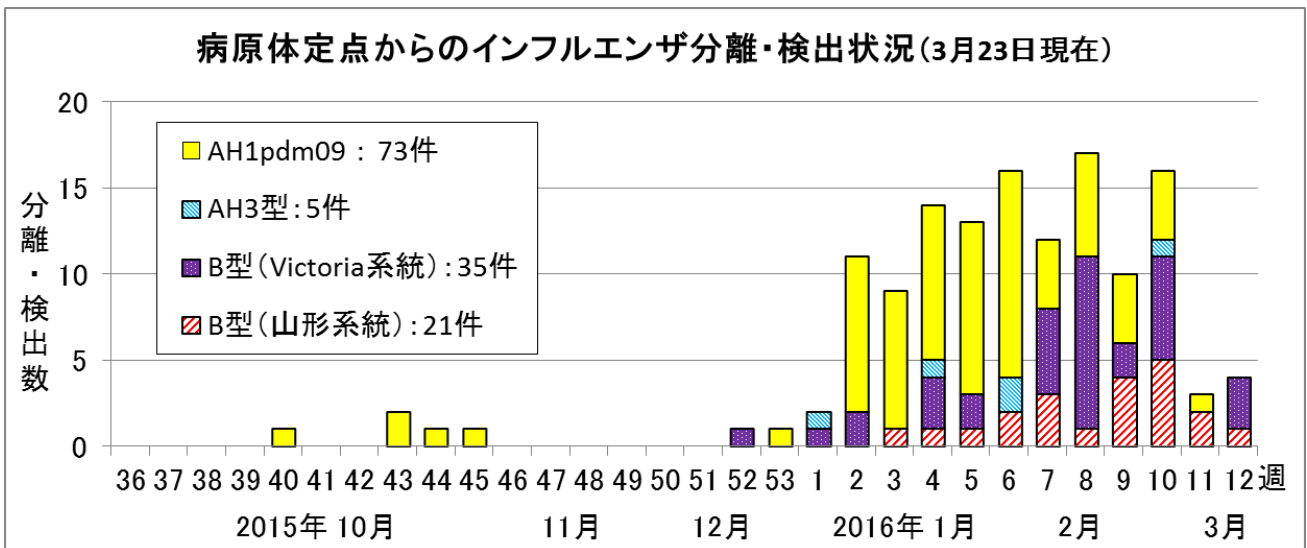
5 インフルエンザ脳症:第3週に10歳代の報告が1件あり、**AH1pdm09**が検出されています。また第7週に幼児の報告が1件あり、迅速診断キットで**B型**が確認されています。

6 迅速診断キット結果:市内医療機関における迅速診断キットの結果では、A型、B型ともに減少傾向です。B型が占める割合は増加しており、**第11週はB型が約8割を占めました。**

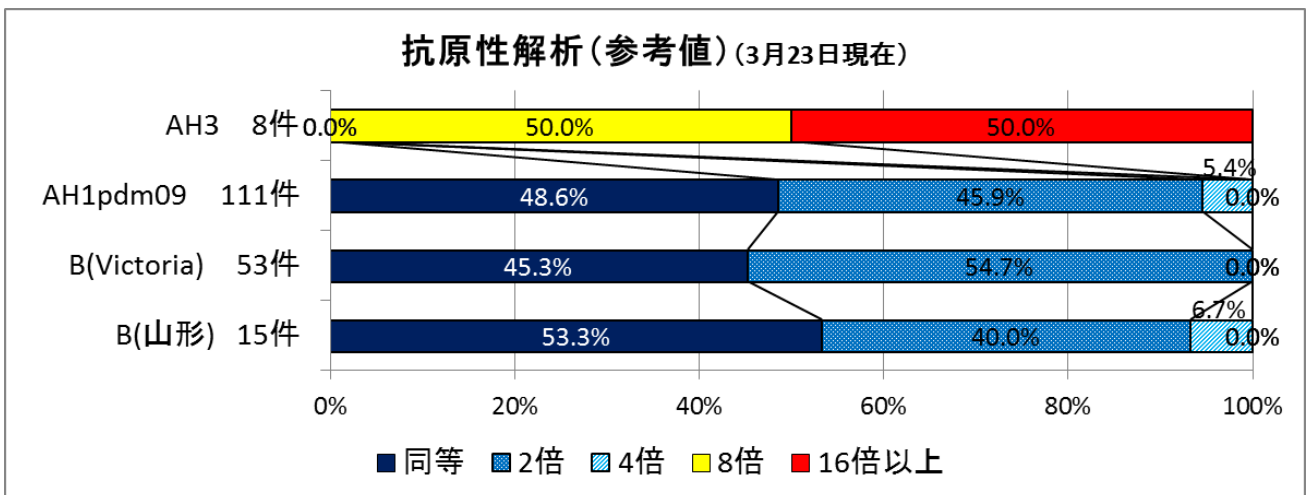




7 市内病原体検出状況:市内の病原体定点からの検出状況では、第7週以降はB型がA型を上回っています。第11週はB型(山形系統)2件、AH1pdm09型1件、第12週は現時点でB型(Victoria系統)3件、B型(山形系統)1件が検出されています。



8 分離株の抗原性解析:市内で検出された AH1pdm09 株(111 株)、B 型(Victoria 系統)株(53 株)と B 型(山形系統)株(15 株)では、ワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、**すべて HI 価 4 倍以内**でした。AH3 株(8 株)はすべて **HI 価 8 倍以上**でした。一般的に 4 倍以内でワクチン株と類似していると言われていました。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です(B 型(山形系統)のみフェレット血清を使用)。正式な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。



なお、国立感染症研究所からも、横浜市で分離された AH3 型のうち、4 株の抗原性解析結果が報告され、**すべて 16 倍以上の中和反応性低下(ワクチン株から変異している)**がみられました。AH1pdm09 型は 10 株、B 型(Victoria 系統)4 株、B 型(山形系統)株 2 株の抗原性解析結果が報告されており、すべて **2 倍以内(ワクチン株と類似)**でした。

※ 週ごとの定点あたり報告数の変動について

流行情報発行後に医療機関から追加報告が寄せられることがあるため、週ごとの定点あたり報告数が変動することがありますのでご注意ください。

【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237